



# きずな



発行元：四国中央市人権教育協議会 〒799-0497 四国中央市三島宮川4-6-55  
電話：0896-28-6028 E-mail:jinkyo@city.shikokuchuo.ehime.jp

## 人権ポスター

北小学校 3年 寺尾 月雲さんの作品  
(現在4年)



### 作者からのメッセージ

つらくてこまっている人がいたら、このポスターを見せたいと思ってかきました。わたしが  
かいたえ顔で、幸せになってほしいと思ったからです。これから、つらいと思っている人がい  
たら、え顔でハッピーになれるよう、「大じょうぶ。」と声をかけたり、相談に乗ったりしてい  
きたいです。

### 今月の 主な記事

- 1 ページ 人権ポスター
- 2～3 ページ 水平社宣言から百年を迎えて
- 4 ページ 人権作文・編集室から

人権教育協議会  
ホームページ  
QRコード



## 人権作文

### 戦争が残した傷跡

中之庄小学校六年 安川 日奈多  
(現在中学二年)

私は、六年生になり、授業や普段の生活の中で「平和」について考えることが多くなりました。そこで感じたのは、一度でも戦争を起こしてしまうと、その先、戦争が終わってもずっとその痛みを引きずって生きていかなければいけないという恐ろしさです。心に傷を負ったまま、生きていくのです。家族を亡くした辛さ、元気に過ごしていたはずなのに襲ってくる後遺症。最もひどいのが、それによって引き起こされた差別です。

私には、被爆三世と言われる知人がいます。二年前には、その知人の家族と一緒にご飯を食べにきました。幼稚園に行っている子どもも一緒に、とてもかわいかったです。けれど、その知人が、「広島から来たというだけで、相手に嫌な顔をされることもあるよ。結婚する時も、広島の人だから家族も被爆しているだろうと、そんな理由をつけて断られることがあるのよ。」と、辛そうに教えてくれました。私は、それを聞いて、知人は何も悪いことをしていないのに、怒りが湧いてきました。戦争が起こり戦地に向いたことや、それによって後遺症を負ってしまったことなど、好きでしたことではなく、その人自身が悪いことではありません。戦争が人を不幸にしているのです。

戦後、人々は、今の日本国憲法の三つの柱の一つである「基本的人権の尊重」ができていなかったのだと思います。人は生まれながらにして幸せになる権利を持っている。私は世界中の人が平和に暮らしている世の中になればと思います。私は、一学期、学校の授業で、シトラスリボンについて学びました。

先生が、「シトラスリボンは、安心して暮らせる町にするための取組みなのよ。」と教えてくれました。今もコロナウイルスによって差別したり差別されたりする人がいます。コロナに罹った人が悪いのではなく、ウイルスが悪いのです。人が人を攻撃しないように、そして、「おかえり、ただいま」が言い合える町にするために、シトラスリボンがあるのです。私は、学んだことを通して感じたのは、「人って、自分の身に危険を感じると、自分以外の誰かを攻撃してしまうのかな。」ということだと思います。シトラスリボンは、幸せのクローバーの形をしています。三つの輪が互いに守り合っているのだと思います。けれど、思うのは、シトラスリボンは差別をなくそうという大切なプロジェクトですが、その活動自体が無くて暮らしている世の中になってもいいということなんです。

私も戦後の平和な世の中に生きていて、「あの人の放射能を浴びとるらしいよ。」と聞いてしまったら、警戒してそっけない態度をとってしまうかもしれない。けれど、実際に戦争が終わった今でも苦しみを続けている人の存在を知り、そのことを忘れず次の時代へ伝えなければと思いました。広島平和式典で、同じ六年生の児童の「平和の誓い」にもあったように、私には使命があるのだと思っています。総合的な学習の時間に、クラスの友達と話し合って決めたことは、「中之庄 平和の誓い」です。

「一、今この瞬間を全力で生きていきます。」  
「二、自分の力を誰かのために使います。」  
「三、平和への強い思いを周りに広げます。」  
この三つの誓いを胸に、これからも仲間と繋がって行動していきたいです。困ったときには助け合い、自分のできる限りのことを全力で頑張る、そして自分は絶対に差別しない、反差別の気持ちを周りに広げていきます。

しんどい時、嫌な自分が見え隠れする。  
私は家族のために仕事を頑張っている。休日くらいゆっくり休ませてほしい。パートナーは仕事をしていないのだから家事や育児をしっかりとやってほしい。子どもは親に口答えしてはいけない。  
自分の心に余裕がなく、相手のことを考えられないう。普段から相手の気持ちに寄り添い考えることで、このような自分本位な考えが出てくることなくなるのではないか。  
また会話する時に、うわべだけの会話になってしまっていないか。ちゃんと相手の目を見て会話しているか。しんどい時、私は相手の目を見て会話することができていなかった。大切な存在だからこそ、あなたの話を聞かせてもらうという姿勢が大切だと思う。  
しんどい時こそ、自分の行動で相手を不快にしたり、傷つけたりしていないかを確認したい。

(T・H)

## 編集室から

家族で回覧して下さい